

豊中市教育委員会



教職員向けセキュリティに ARCACLAVIS Rex を採用し、 「学びの循環都市」を支える情報基盤を整備

「セキュリティは強力になればなるほど、利用者にとって不便なものになってしまいがちです。利便性とセキュリティのバランスが良く、だれもが使える環境があれば、利用者のセキュリティ意識を高めることで、うまく運用することができます。ARCACLAVIS Rex は、われわれのニーズにこたえるソリューションでした」



<http://www.toyonaka-osa.ed.jp/educ/>

Customer Profile

組織名：豊中市教育委員会
所在地：大阪府豊中市
導入校数：15 校（ユーザ数：約 500 人）
導入製品：ARCACLAVIS Rex
使用開始時期：2012 年 4 月



豊中市のマスコットキャラクター「マチカネくん」。マンホールのふたなどに描かれ、市民から親しまれている。

児童・生徒の個人情報 保護する暗号化システム

大阪府北西部に位置する豊中市は、「人とつながり、未来を拓く『学びの循環都市』をめざして」を基本理念とする教育振興計画に基づき、生涯教育と学校教育を連動させた取り組みを行っている。平成 24 年 4 月には中核市へと移行した。同時に、近隣 2 市 2 町とともに、大阪府から教職員の人事権の移譲を受けた。同市において、市立小学校 41 校と中学校 18 校を束ね、子どもたちの教育を受け持っているのが、豊中市教育委員会である。

豊中市においても教育の情報化が推進されている。全校に PC が設置され、すべての教職員と児童・生徒が PC を利用するようになると、セキュリティに気を配る必要が出てくる。豊中市では、平成 15 年に市としてのセキュリティポリシーを策定し、教育委員会では平成 20 年に個人情報保護についてのガイドラインを設けた。それに先立ち、平成 19 年より暗号化システムを段階的に導入し、学校に設置したファイルサーバをセキュアに運用できるようにした。

校内には、2 系統のネットワークがある。児童・生徒も利用する学習系のネットワークと、教職員が利用する校務系ネットワークだ。成績表や連絡先などの個人情報や職員会議で利用する資料は校務系ネットワークからアクセスできるファイルサーバに置き、そこを暗号化することで、セキュリティを担保することにしたのだ。

とはいえ、教職員にとって校務でシステムを使うのは初めてのこと。採用した暗号化システムはセキュリティ面のニーズを充たしてはいた。ただ、実際に校務で利用してみると、決して使い勝手のいいものではなかったという。

豊中市教育センターセンター長鈴木暁子氏は、「いまは、教員の世代交代の時期。若い先生のほとんどは PC を扱い慣れているのですが、ベテランの先生方の中には PC が苦手な方もおられます。さらなる情報化のためには、セキュリティと利便性のバランスが最適なソリューションを採用しなければならぬ」と考えるようになりました。

予算の問題もあった。優れたツールであっても、コストが合わなければ採用することはできない。豊中市教育委

員会は、リース切れに伴う新システム選定に当たり、だれもが扱いやすく、かつ低コストに導入できるソリューションを探し求めることになった。

「だれもが意識せず使えること」 が決め手に

新たな暗号化システムを選定するにあたり、豊中市教育委員会では、セキュリティ関連のセミナー／イベントへの参加やインターネットによる情報収集などを行い、候補を 3 つのソリューションに絞り込み、最終的には検討委員会が各社のプレゼンテーションとデモで評価し、ARCACLAVIS Rex の採用を決めた。

豊中市教育センター情報・科学グループ長成瀬彰氏は、「ARCACLAVIS Rex は Windows ライクなユーザインタフェースで、だれもが意識せず使いやすいとの評価でした。豊中市がジャパンシステムの FAST を財務会計システムに導入していたこともあり、システム構築に実績を持つ企業の製品であることも考慮しました」と話す。

以前に使っていたソリューションの独自ユーザインタフェースが不評で、なかなか使ってくれない人が一定数いたことを反省材料とした。一旦ファイルサーバに格納したファイルをデスクトップに取り出せないなど、利用者にとって不便だった点もクリアされた。セキュリティの強さと利便性のバランスを重視した結果だ。

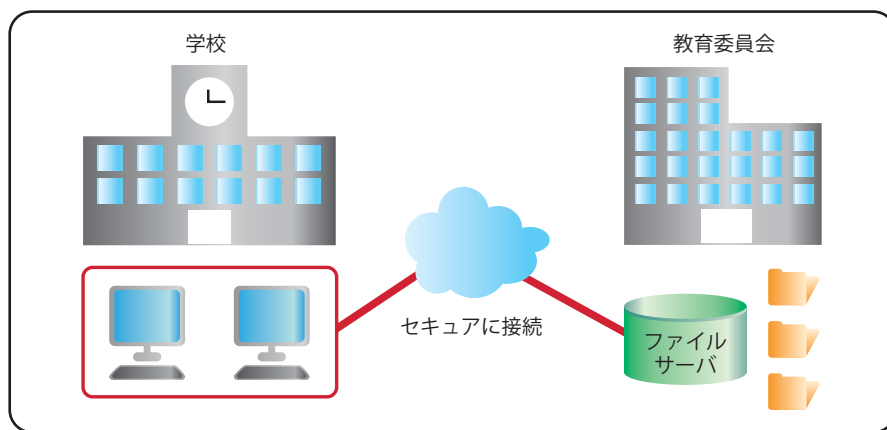
豊中市教育センター教育計画チーム情報・科学グループ主査 井関一史氏は、「どれだけ強力なセキュリティがあっても、使われないシステムであれば本末転倒です。だれもが使える仕組みさえあれば、使い方のガイドラインを作り、セキュリティの大切さを啓発するのはわれわれの仕事。その前提として ARCACLAVIS Rexにより教職員が安心して校務を行える条件を整えました」と話している。

平成24年2月、先行して15校に導入。同年4月より、対象校の約500人の教職員が、ARCACLAVIS Rexの活用を開始した。



豊中市教育センター

教育計画チーム 情報・科学グループ長 **成瀬 彰氏** (左)
センター長・教育計画チーム長 **鈴木 暁子氏** (中央)
教育計画チーム 情報・科学グループ主査 **井関 一史氏** (右)



ARCACLAVIS Rexですべてのファイルを暗号化

安全で高品質な校務を実現

連絡先情報や成績情報など、数多くの個人情報管理する学校において、教職員は情報漏えいの怖さを知っている。ただ、利便性が高くなったことで、気のゆるみが出ることは避けなければならない。豊中市教育委員会では、教職員に対

する意識づけをより積極的に行い、システムと運用の両面で万全のセキュリティ体制の構築をめざす。

導入後、教育現場からの問い合わせは予想より少なかったという。利用状況は悪くない。セキュアでありながら、それを意識することなく利用できる ARCACLAVIS Rexは、教育現場にうまく浸透しているようだ。

さらなる成果もあった。ARCACLAVIS Rexを導入した15校は現在、各校に設置されていた校務用のファイルサーバを撤去し、VPNを介して豊中市教育センターのファイルサーバを利用している。学校には、サーバの管理者はいない。各学校がメンテナンスの負担から解消されたことにも大きな意味があった。

豊中市教育委員会は、先行整備した学校と同様にセキュアで使い勝手のよい環境を全校に展開する必要があると考えている。今後は、校務システムとの連携も視野に入れ普及させることも検討している。それが実現すれば、教職員のシステム活用の促進にもつながるはずだ。ITの活用に積極的な自治体として知られる豊中市の教育委員会として、セキュアで利便性の高い環境は整えた。豊中市教育委員会は、教職員のITレベルとセキュリティ意識をどちらも高め、安全で高品質な校務を推進していく。